

活動報告書

1 団体名

@は一もにあかふえ

2 活動内容

- 発達障害などで生きづらさを抱える人々やその周りの人々が、地域社会で支え合い、共に生きることを目指し、地域の課題に取り組むことで、社会参加の促進や偏見・差別の解消を目指した。また、発達障害などで生きづらさを抱える人々と地域社会との共生を促進することを目的とした。
- 発達障害などで生きづらさを抱える人々、その家族や支援者、地域住民を対象に活動を行った。
- 居場所づくり・ピアサポート・啓発講演・視察研修・親子向け活動など多岐にわたる事業を展開し、発達障害のある人々が地域で安心して生活できるよう支援した。また、地域住民との交流や啓発活動を通じて、地域全体で発達障害に関する理解を深めることを目指した。

3 活動期間

令和7年 6月 11日から 令和8年 3月 31日まで

4 活動実施内容

1. 定常活動 茶話会の開催（7月～3月 月1回 計9回 延べ59名）
2. 定常活動 読書会・哲学かふえの開催（秋：11/9 計1回 延べ6名）
3. 先進事例視察（善意銀行助成事業）（10月 東京 計1回 延べ2名）
4. 啓発講演会の開催（ハイブリッド形式）
 - a. 10月 ADHD 啓発月間講演会（野口ふれあい交流センター体育館・オンライン 計1回 延べ83名）
 - b. 3月 発達障害啓発週間プレ講演会 2026（別府市役所レセプションホール 計1回 延べ109名）
5. 自主上映会「ノルマル17歳。」の開催（10月 計1回 延べ25名）
6. でこぼこまるまる食堂（調理会）の開催（10月 計1回 延べ9名）
7. でこぼこまるまるかふえ（親子の会）の開催（10月 12月 計2回 延べ9名）
8. 夏休み親子イラスト教室の開催（8月 計1回 延べ18名）
9. 発達障害専門プログラムお試し体験会（茶話会内30分 計9回 延べ59名）

5 活動の成果

1. 茶話会は令和8年1月より参加費を300円から500円に改定し、提供内容をお菓子から飲み物へ変更した。ゲストとして訪問看護ステーション Reaf おおいたおよびディーキャリア大分オフィスを複数回お招きし、充実した内容を提供できた。年間計12回を通じて居場所機能を継続して果たすことができた。
2. 読書会に新たに「哲学かふえ」を同時開催する形式を導入した。本への関心が低い参加者にも「考えること」をテーマに参加を促す新たな切り口が生まれ、参加層の拡大が期待できる取り組みとなった。
3. 善意銀行助成金を活用し、成人発達障害支援学会東京大会への視察を2名で実施した。「べっふの未来まちづくり支援補助金」に加え、県レベルの助成が認められたことは活動の質と公益性の高さの証となった。

4. 啓発講演会では会場を別府市役所レセプションホールへ移したことで、従来の野口ふれあい交流センター開催より大きな規模での開催が実現し、公共性・公益性が大きく向上した。オンラインとのハイブリッド形式で実施し、集客は例年並みを確保した。（3月開催：来場37名・オンライン最大72名・アーカイブ申込み100名超）
5. 夏休み親子イラスト教室を初開催し、初回にして多くの参加者を集めることができた。新規層へのアプローチとして手応えを感じ、次年度継続開催を決定した。
6. 大分大学をはじめとする学生ボランティアが多数参加し、3月の啓発週間プレ講演会では学生約12名がスタッフとして従事した。若い世代との連携という点で大きな前進があった。

6 反省点や今後の目標

- 啓発講演会は関連部署への周知依頼を行っているにもかかわらず来場申込みが伸び悩んでいる。講師・内容の充実とともに、広報手法の見直しにより、より広い層への関心喚起を模索していきたい。
- 善意銀行助成金を活用した先進事例視察の成果として予定していた「福祉ピアサポート講座」は、資金不足および集客の見通しが立たないことから断念した。次年度は費用対効果を重視した事業選定を心がけたい。
- 自主上映会「ノルマル17歳。」は集客が定員の半数にも満たず、費用対効果が得られなかった。映画上映会は集客リスクが高いため、今後は集客の見通しを慎重に立てたうえで実施を判断する。
- でこぼこまるまるかふえ（親子の会）は会場・ゲスト報酬費に対して参加が芳しくなく、赤字が続いた。しばらく休止とし、ニーズや開催形式を再検討したうえで再開を検討する。